

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市都市計画審議会小委員会(第1回)				
事務局 (担当課)		まちづくり計画部 都市計画課 電話042-769-8247(直通)				
開催日時		平成29年10月31日(火) 10時~12時				
開催場所		相模原市民会館 2階 第2小会議室				
出席者	委員	5人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	11人(都市建設局長、まちづくり計画部長、都市計画課長、 他8人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 小委員会の運営について 2 委員長、副委員長の選出 3 議題(都市構造分析に基づく将来都市像について) 4 その他				

審 議 経 過

1 小委員会の運営について

「相模原市都市計画審議会小委員会の議事運営について」事務局から提案を行い、了承された。

次に、上記の「相模原市都市計画審議会小委員会の議事運営について」5の規定に基づき、出席委員の人数が定足数に達していることを確認した後に、議事の審議を行った。

主な内容は次のとおり。(は委員長の発言、 は委員の発言、 は事務局の発言)

2 委員長、副委員長の選出

相模原市都市計画審議会条例施行規則第8条第3項の規定に基づき、委員の互選により委員長に西浦委員、副会長に加藤委員をそれぞれ選出した。

3 議題（都市構造分析に基づく将来都市像について）

事務局から「都市構造分析に基づく将来都市像について」説明を行った後、質疑を行った。

相模原市は、都市的地域と自然的地域の相反する議論の軸があり、目指すべき姿を考えるのは非常に難しい。現行都市計画マスタープランの将来都市構造図が、なかなか実態に合わないところがある。また、拠点の位置づけが、津久井などの中山間地域と都市部とで同じで良いかなどの課題がある。これからは、公共施設の維持管理もままならなくなると予測される中で、これまでの方策では解決できず、様々な分野の方と議論していく必要がある。まずは各委員に全体的な感想等をお聞きしたい。

現状等を確認し、相当悩ましいと実感した。どのように現状をとらえた上で人口密度を維持するために居住を誘導する区域を設定するのが論点の1つであり、実際に人が住んでいるところと誘導する区域が重なるかが心配である。他都市では、人口減少が進行している団地を、近隣にある拠点整備によって再生する例があったが、相模原市は中山間地域等もあるため、オリジナルの手法を考えていく必要がある。

現行都市計画マスタープランは2つにゾーン分けしているが、暮らしとにぎわいゾーンの中でも、拠点到達できないところもあるが、一方でそういった箇所は大きな病院に近い面もある。将来的に小田急多摩線延伸をどうとらえる必要が

あるのかも考える必要がある。立地適正化計画のイメージ図の中で、島のように表現されている箇所はどのようなまちのイメージなのか？

立地適正化計画のイメージ図の中で、T字の部分は鉄道が連なったところであり、相模原市においてはJR横浜線と小田急小田原線の沿線などが該当してくるイメージである。また、島状の箇所は、津久井などの路線バスだけで結ばれている集落等が該当するイメージである。島状の箇所は、都市計画マスタープランの将来都市構造に位置づけがないため、議論が必要となる。

立地適正化計画という名称には多少違和感がある。そもそも誰のための適正化なのかという疑問を感じるし、行政コスト削減のためという印象が強い。実際に、市民に示す際には違う表現で公表・説明した方が良いと思う。今回現況データを詳しく説明していただき、かなりイメージが膨らんだが、人口・人口密度だけでなく、居住する人の個も見ると考える。例えば、定住意識も地域差があり、特に高齢者などは不便とわかっていて住んでいる人がいる。自己選択という部分をどのように捉えていくかがポイントであり、データとしてあらわすことができると良い。また、地縁組織の強さもとらえた中で議論する必要があると感じた。

人口密度と行政コストのグラフがあるが、ネット社会が進んでいる中で、現在のコスト計算と将来とでは違ってくるのではないかと。また、人口については、移民の方をどのように数として捉えていくかが関係してくる。スーパー等の小売業態も店舗型から変化してくると考えられるため、その方々が今後どのように考えているのかを把握しながら議論する必要がある。

生活の質の維持と行政コスト削減の両立は難しいと思うが、津久井地域などは、人間関係の力を活用するなど、少し違う視点で計画を立てないと合意が得られないだろう。郊外と市街地を分けたプランを考える必要がある。

市街地で人口等を集約していく中でも、世代や経済等の格差が生じてくるのではないかと気になった。これまでどこにターゲットを置いて都市計画マスタープランを作成していたのか、今後はどこをターゲットに考えているのかお聞きしたい。

これまでは人口が増加していたため、ターゲットを定めず全体を見た中での計画となっていた。今後は、ターゲットを明確にしていかなければ、と考えている。何をターゲットにするのが課題となる。

今後を考える時に、リニア・小田急多摩線延伸等のプロジェクトや、商業施設の立地のあり方等との兼ね合いが出てくる。将来の部分をどのように盛り込んで考えるか、地域性をどう盛り込むのかを考えなければならない。

立地適正化計画は、行政の視点からの制度であると思う。人口が減少していても地域力がある場所が多い。例えば、転出しようとする店舗を地域の住民が利用することで守るといった取り組みが展開されている地域もある。そのため、中山間エリア・市街地エリアを分けて考えていくことが考えられる。また、将来を見据えながらプランニングしていくことも考えられる。

自然を管理する視点から見ると、人が減っていくことに問題はないか？

里山や水源地など、人が利用することによって守られている自然も多いため、関連性を考えていく必要がある。

高齢者施設の立地状況のデータがあったが、専門的視点から見てどうか？

在宅前提のサービスに変化してきている中で、将来的に多くの施設が必要とならない可能性が考えられる。地域包括ケアについては、うまく機能している部分とそうでない部分がある。サービスがパンクしている面があり、それを地域力でカバーする方向にシフトせざるを得ない状況がある。

民生委員にこれ以上の負担をかけることは難しく、地域の力を支えるためのハード整備が重要になると考える。民生委員も高齢になってくる中で、コンパクトなまちの方が高齢者の見守りがしやすくメリットがある。また、近年話題の24時間型の介護も、あまりに移動距離が長いとコストに見合わないため、実質的には密集地域でないと成立しない状況もある。コンパクトに集住していることによるメリットは確かにある。

隣接市町村の施設を利用している人もいるため、相模原市内だけで施設数を考えていくと実生活と合っていない。地域コミュニティについては、隣接町会と連携していく流れも出てきている。制度上難しい面があると思うが、隣接市と負担し合うことも考えていく必要がある。

生活圏がとなりの市町になっていることが気になった。隣接市町村の施設を把握した方が良い。

隣接市町村の状況については、人の流れは既に捉えているが、施設はまだ把握できていない。一番大きな要素は町田市・海老名市等であると考えられるため、調査したいと考えている。

近年は、あえて離れた場所で活動の場を持つ人がいる。居住地の近くだと活動から離れづらい等の理由が関係している。中心市街地の居住者などは、電車で離れた場所に行っている可能性がある。

多摩ニュータウンでは、住み替えの議論をすると人間関係にまで内容が及ぶため踏

み込みづらい面があるといった例もあったので、どこまで考えるかは重要な点である。

人の行動が世代ごとにわかれば見てみたい。

パーソントリップ調査結果をもとに整理したい。

中山間地域の人がどのような仕事をしているのかが把握できれば、先程意見が出た自然の維持管理について考えやすい。

国勢調査結果をもとに整理したい。

地域力がわかるもの、将来的にネットが普及した時に起こる変化などがわかると良い。また、定住人口ではない学生を市としてどのように捉えていくのが議論できればと考えている。大学は将来的にキャンパス撤退も考えられる。

住宅団地などの計画的に整備されたまちは、人口が減少しても対策に取り組みやすいので、分布等のデータがあると考えやすい。

大規模なニュータウン系ではないが、URなどの住宅団地があるので整理する。

その他、必要なものがあれば事務局に連絡していただきたい。今回については、これまでの都市計画の考え方では難しい問題であることが確認できたので、次回までに考えていただき忌憚のない意見を述べていただければと思う。

検討段階に応じて、現地視察の実施も考えていただきたい。

4 その他

<会議録の作成について>

委員長に一任する。

<傍聴の取扱いについて>

小委員会は、条例の施行規則に基づき設置しているため、基本的には公開とする。

<次回の日程>

平成29年11月29日18時～

相模原市都市計画審議会小委員会(第1回)委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	飯島 泰裕	青山学院大学 社会情報学部 社会情報学科 教授		欠席
2	伊藤 彰英	麻布大学 生命・環境科学部 環境科学科 教授		出席
3	加藤 仁美	東海大学 工学部 建築学科 教授	副委員長	出席
4	西浦 定継	明星大学 理工学部 総合理工学科 教授	委員長	出席
5	保井 美樹	法政大学 現代福祉学部 福祉コミュニティ学科 教授		欠席
6	澤岡 詩野	ダイヤ高齢社会研究財団 研究部 主任研究員		出席
7	中西 泰子	相模女子大学 人間社会学部 社会マネジメント学科 准教授		出席